

# News Letter vol.46 2012.8.29

## ヨーロッパ・ロシアへの訪問

派遣国名：オーストリア、オランダ、ドイツ、ロシア

受入機関：Biologiezentrum/Oberoesterreichische Landesmuseen（オーストリア）、National Natuurhistorisch Museum（オランダ）、Senckenberg Deutsches Entomologisches Institut（ドイツ）、Zoological Museum of Zoological Institute, Russian Academy of Sciences（ロシア）

派遣期間：2012.6.2～2012.8.12



オーストリアでお世話になった博物館

2012年6月2日から8月12日までの約2ヶ月半、本プログラムのご支援を得て、ヨーロッパ三カ国とロシアの各博物館・研究所へ訪問し、ハナバチ類というハチの分類研究を行ってきました。以前のニュースレターにて、研究対象としているハナバチ類の説明をしていますので、ここでは割愛させていただきます。



オランダでお世話になった博物館

今回の渡航は、①動物地理区上の旧北区（ヨーロッパから東アジア）や東洋区北部（台湾から中国西南部、ネパール）から知られている、主に私が専門としているコハナバチというハナバチ類の標本コレクションを調査・研究すること、②主に東南アジアに分布しているクマバチ類標本の採集地情報のデータベース化を行うことの2点が主な目的です。今回は、ヨーロッパ各地を鉄道で長距離移動をしながら、各地を転々としていましたので、思っていたよりも慌ただしい日々でしたが、概ね目的も達成でき、数多くの新知見を得ることができました。

ちなみに滞在期間中、こちらは日本とは違い、蒸し暑くもなく爽やかな日々でしたが、天気がかざれると途端に寒くなり、日によっては重ね着をしないと寒いくらいでした。寒暖の差が日本よりもずっと激しかったのですが、幸い大きく体調を崩すことなく、現地での生活を送ることができました。私自身、初めての海外長期滞在ということもあり、出発前は不安が大きかったのですが、各地でお世話になった方々は、大変親切に接して下さり、おかげさまで楽しく充実した日々を送ることができました。何よりも、各博物館・研究所に保存されている膨大な量の標本コレクションを調査できたこと、各地の研究者とのコネクションも築けたことなど、これからの私の研究人生で、かけがえのない大きな財産となりました。



左：ドイツでお世話になった博物館

最後に本プログラムにおいてご支援いただきました先生方やスタッフの皆様にご心から御礼申し上げます。



右：ロシアでお世話になった博物館